

公益社団法人 日本天文学会

2017年度事業報告書

I. 出版物の刊行（定款第2章第5条2項に該当の事業）

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第69巻2号-6号、増刊特集号70巻SP1号、第70巻1号の計7回刊行。総論文数144編（うちReview3、Letter10、HSC特集40）、総頁数2,375頁、紙版発行部数250部、偶数月25日発行。
2. 天文月報 : 第110巻5号-12号、第111巻1号-4号を刊行。総頁数794頁、総目次10頁、発行部数3,500部、毎月20日発行。
3. 年会予稿集:2017年秋季年会発行総頁数337頁、450部印刷。2018年春季年会発行総頁数309頁、450部印刷。
4. ジュニアセッション : 春季講演予稿集88頁、450部印刷。
5. 「シリーズ現代の天文学」第5、13、15巻第2版を刊行した。

II. 年会の開催(定款第2章第5条1項に該当の事業)

1. 2017年秋季年会
2017年9月11日(月)から13日(水)の3日間、北海道大学(北海道札幌市)にて口頭講演会場11、ポスター会場8を使って開催した。講演件数は口頭講演が504件、ポスター講演が205件の合計709件、年会参加者は915名(一般555名、学生360名)であった。本年会では、通常講演のほか天文教育フォーラムを行った。展示コーナーは賛助会員による1件の展示があった。また保育室を開設し8家族10名の利用があった。年会に先立ち9月10日(日)に記者発表(講演2件)を行った。同日に公開講演会を開催し、102名が来場した。懇親会は9月12日(火)に行い、出席者は一般207名、学生154名の合計361名であった。
2. 2018年春季年会
2018年3月14日(水)から17日(土)の4日間、千葉大学(千葉県千葉市)にて口頭講演会場10、ポスター会場1を使って開催した。講演件数は口頭講演が459件、ポスター講演が173件での合計632件、年会参加者は921名(一般584名、学生337名)であった。本年会では、特別セッション2件(「安全保障と天文学」、「連星中性子星合体GW170817」)、企画セッション2件(「すばる超広視野多天体分光器PFSは何を明らかにするのか?」、「マゼラン雲で探る星・星間物質の進化」)、ジュニアセッション、天文教育フォーラム、進路相談コーナー、林忠四郎賞・研究奨励賞受賞記念講演を行った。また保育室を開設し4家族4名の利用があった。年会に先立ち3月13日(火)に記者発表(講演3件)を行った。3月18日(日)に千葉市科学館プラネタリウムにて公開講演会を開催し、211名が来場した。懇親会は3月16日(金)に行い、出席者は一般120名、学生49名のほか招待者を合わせて計180名であった。

III. 代議員総会・理事会・会員全体集会及び監査(定款第6-8章第36-57条に該当の事業)

1. 代議員総会

日時: 2017年6月3日(土) 13:00~16:35

場所: 日本大学理工学部お茶の水校舎 11階 C1101 会議室(東京都千代田区)

議長: 市川 隆(議事録は学会ホームページに掲載)

日時: 2017年9月12日(火) 11:40~12:40

場所: 北海道大学高等教育推進機構 E208号室(札幌市北区)

議長: 柴田一成(議事録は学会ホームページに掲載)

日 時：2018年1月20日（土） 13:00～17:00
場 所：東京八重洲ホール 会議室 901（東京都中央区）
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2018年2月12日（月） 13:00～15:00
場 所：東京大学理学部 1号館 11階 1109室（東京都文京区）
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2018年3月14日（水） 11:30～12:30
場 所：千葉大学西千葉キャンパスC会場（総合校舎4号館2F）（千葉県千葉市）
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

2. 理事会

日 時：2017年5月20日（土） 13:00～15:45
場 所：京都大学東京オフィス・大会議室 A（東京都千代田区）
議 長：市川 隆（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2017年6月3日（土） 16:40～19:00
場 所：日本大学理工学部お茶の水校舎 11階 C1101 会議室（東京都千代田区）
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

議決日：2017年7月19日（水）
方 法：メールによる電磁的決議
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

議決日：2017年7月26日（水）
方 法：メールによる電磁的決議
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2017年9月11日（月） 17:00～20:00
場 所：北海道大学高等教育推進機構・N232号室（北海道札幌市）
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

議決日：2017年11月2日（木）
方 法：メールによる電磁的決議
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2017年12月23日（土） 13:00～17:50
場 所：東京八重洲ホール 302号会議室(3F)（東京都中央区）
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

議決日：2018年1月16日（火）
方 法：メールによる電磁的決議
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

日 時：2018年3月14日（水） 19:10～21:10
場 所：千葉大学西千葉キャンパス・理学部2号館2F会議室（千葉県千葉市）
議 長：柴田一成（議事録は学会ホームページに掲載）

3. 会員全体集会

日 時：2017年9月12日（火） 15:30～16:30
場 所：北海道大学札幌キャンパス（高等教育推進機構）年会J会場（北海道札幌市）
司 会：伊王野大介

日 時：2018年3月15日（木） 15:45～17:15
場 所：千葉大学西千葉キャンパス 年会会場 J 会場（千葉県千葉市）
司 会：伊王野大介

4. 公益社団法人2016年度監査

日 時：2017年5月2日（火）13:00～16:00
場 所：国立天文台三鷹キャンパス 院生セミナー室（東京都三鷹市）
出席者：松原英雄、渡邊鉄哉、柴田克典、熊谷紫麻見、山下卓也、佐藤良信事務長、亀井久治公認
会計士（オブザーバー）

IV. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する細則」に準拠）

本年度は以下の20の委員会と1の顧問において構成メンバー（任期2年の1年目）により各種活動が行なわれた。

◇ 欧文研究報告編集顧問

編集顧問会議を2017年11月15日に東京大学（本郷）で開き、今後の招待レビューと特集企画、投稿促進及び広報活動の方策、OUP社との連携などについて検討を行った。

◇ 欧文研究報告編集委員会

2017年度は、246編の論文が投稿され、編集委員が分担して査読手続を行った。通常号を6号、増刊特集号を1号、合計7号発行し、144編・2,375頁を掲載した。増刊特集号として「Subaru Hyper Suprime-Cam Survey」を企画・編集した。編集委員会会議を2017年11月15日に東京大学（本郷）で開き、査読手続・編集方針、特集企画に関する対応などについて議論し、OUP社の方ともPASJの刊行状況などについて意見交換を行った。69巻2号より紙版送料の有料化を実施した。

◇ 天文月報編集委員会

月に一度、Zoom会議システムを用いて編集会議を開催し、天文月報の編集作業を行った。2つの特集（歴史書から探る太陽活動、すばる望遠鏡主焦点カメラ Suprime-Cam）を組んだほか、連載記事「安全保障と天文学」を掲載した。また、ASTRO NEWS で重力波源の史上初の電磁波対応天体同定についての速報的な記事を掲載した。

◇ 年会実行委員会

秋季年会（2017年9月11日～13日・北海道大学）および春季年会（2018年3月14日～17日・千葉大学）を開催した。両年会の準備にあたっては、2017年7月11日および2018年1月11日に年会実行委員会を国立天文台において開き、プログラムを編成した。

◇ 天文教育委員会

年会時の公開講演会と天文教育フォーラム(天文教育普及研究会と共催)を開催した。次年度以降の天文教育フォーラム開催分についても準備を開始した。なお、公開講演会の準備等に関しては、次年度からは年会実行理事がとりまとめを行うこととし、公開講演会の司会は天文教育委員会が引き続き担当する。講師紹介プログラムは本年度6件依頼があり、4件が成立、2件が調整中である。天文教育に関する各種協力要請に積極的に対応した。

◇ 選挙管理委員会

第5期代議員(任期:2018年度~2021年度)の選挙を定款及び代議員選挙施行細則に則り行った。2017年11月10日~12月12日を投票期間とし、2017年12月13日に開票作業を行った。代議員選挙施行細則第10条により、定数21名のうち20名の当選者を得票順に決定し、21番目は同票が2名だったため、選挙管理委員会の抽選により決定した。また補欠についても、2番目は同票が2名だったため、選挙管理委員会の抽選により決定した。以上の選挙結果を天文月報2018年2月号に報告した。

◇ 推薦委員会

第5期代議員(任期:2018年度~2021年度)の選挙について、代議員選挙施行細則第7条に則り、候補者の推薦を行った。具体的には、会員から広く候補者の推薦を募るため、2017年9月20日~10月5日に候補者の推薦を受け付けた。受け付け締め切り後、本委員会で代議員候補として被推薦者の選出を行い、その結果を2017年10月11日に選挙管理委員会へ報告した。

◇ 林忠四郎賞選考委員会

天文月報2017年9月号並びにtennetで、林忠四郎賞受賞候補者の推薦と欧文研究報告論文賞候補論文の推薦を11月10日締切で会員に依頼した。11月26日に選考委員会を開催し、林忠四郎賞候補1件、欧文研究報告論文賞候補論文2篇を選出し、2018年1月20日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 研究奨励賞選考委員会

天文月報2017年9月号並びにtennetで第29回研究奨励賞候補者の推薦を会員に依頼した。2017年12月6日に選考委員会を東北大学東京分室で開催し、候補者3名を選出し、2018年1月20日および2月12日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 天体発見賞選考委員会

天文月報2017年9月号で(第17回)天文功労賞候補者の推薦を会員に依頼し、0件の推薦を受けた。2017年12月29日に開催された選考委員会で、天体発見賞4氏13件、天体発見功労賞1氏1件、天文功労賞(長期部門)1氏1件、天文功労賞(短期部門)1氏1件の候補を選出し、2018年1月20日に開催された代議員総会に推薦した。

◇ 内地留学奨学金選考委員会

天文月報2017年7月号並びにtennetで2017年度の内地留学奨学金奨学生の募集を行ったが、応募がなかったため「該当者なし」とした。

◇ 早川幸男基金選考委員会

若手海外学術研究援助の募集・選考を、第 97 回から 100 回までの 4 回実施した。応募 56 件から 21 件を選び、採択率は 38%で、採択額は約 480 万円であった。実際の援助額は約 445 万円であった。2016 年度（応募 54 件、採択 23 件、採択率 47%）に対して応募総数はほぼ同じであったが、第 98 回は応募が 26 件、第 99 回は 2 件と各回に大きな差があったため、予算の大幅な超過が生じないよう採択件数をやや抑制した。

◇ ネットワーク委員会

学会ウェブページについて、「会長あいさつ」等新理事会発足とともに必要な改訂に加え、記者会見及び公開講演会の案内をトップページに定型的・継続的に掲載するよう改めた。特に、「安全保障と天文学」活動を社会への主要なアピールと考えトップページに掲載した。今後の全面的リニューアルに向け、掲載情報のページ構造、望ましい維持・管理体制について検討し、新体制に徐々に移行中である。又、メールサーバ、年会のサーバを含む事務所内計算機を常に適正な状態に保持し、さらに新職員も増えたため事務所職員のメール利用（職務メール、個人メールの区別等）について前理事会期からの方針を引き継ぎ、再度注意喚起等を行った。

◇ 天文教材委員会

天文学辞典の作成に協力した。宇宙図 2018 の監修に協力した。

◇ ジュニアセッション実行委員会

2018 年春季年会(千葉大学)にて第 20 回ジュニアセッションを開催、予稿集を発行した。その準備のため、2018 年 1 月 28 日にプログラム編成会議を実施、また随時各委員、世話人が分担して準備作業を行った。年会ではタイからの発表 6 件を含め、合計 74 件の発表(口頭・ポスター)が行なわれた。参加者は、生徒や教員など 322 名、一般参加者 72 名、及び、学会参加者約 50 名、合計約 450 名であった。

◇ 男女共同参画委員会

例年開催されている「女子中高生夏の学校」において、天文教育委員会と共同で、中高生・教諭向けに天文学に関する天体観望会を行った。主催団体の「男女共同参画学協会連絡会」には、オブザーバー学会として引き続き在籍することを決めた。また、天文学会年会中の託児費用が科研費などで支払えることの周知をした。天文学会代議員推薦委員会へ女性会員を初めて推薦し、代議員総会でのダイバーシティ推進も行った。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、第 25 回衛星設計コンテストを実施した。最終審査会が 2017 年 11 月 4 日に東京都太田区にある日本工学院片柳記念ホールで開催され、一次審査を通過した 16 件の発表と質疑応答があった。審査の結果、日本天文学会賞を徳山工業高等専門学校チームの宇宙粉末冶金実験「EMPEROR」に授与した。

◇ キャリア支援委員会

若手の会 2017 年度夏の学校の全体企画「院生の未来を並べてみる～アカデミック？民間就職？～」(2017 年 7 月 27 日開催)にパネリスト候補の紹介と旅費の補助を行った。春季年会において、企画の一つとして年会に参加している大学院生とポスドクに対する「進路相談コーナー」を設置した。また、天文教育普及研究会と共同で天文学と社会を繋ぐ職種の人材公募情報をまとめたウェブサイトを企画し、試験運用を行った。

◇ 全国同時七夕講演会実施委員会

電子的に委員会で協議し、4月28日に本年度の講演会登録を開始した。日本学術会議の後援名義を取得した。7月7日の七夕の日や、伝統的七夕の日(本年度は8月28日)を中心とした6月～9月に、日本全国および海外(ドイツ)を含め、99件の講演会が実施された。うち76件から参加者数が報告され、その総計は6618人であった。

◇ 日本天文遺産選考委員会

2017年度は6月に選考委員(5人)を決定し、委員長として半田を選出した。引き続き、日本天文遺産の募集要綱(案)の作成、認定遺産に対して贈呈する楯やパネルの仕様の検討を行った。その過程でスケジュールを見直し、2018年春季年会までに第1回の認定を行うことを見送り、2019年春季年会までに実施することを目標として作業を進めることとした。現在は、会員からの推薦書の様式や贈呈用の楯等のデザインの検討、費用の再見積もりを行っているところである。また、委員会専用メーリングリストの作成を担当理事に要請し、2018/4/9より運用を開始した。

◇ コンプライアンス委員会

本委員会は2017年7月19日にコンプライアンスに関わる検証や検討を行うことを目的として設置された。本委員会は会長から、6月3日の代議員総会での提案に基づく会員除名に関する諮問を受け、検証と調査を行った。その結果を9月1日に会長及び代議員総会に答申した。

◇ 天文教育普及賞選考委員会

2017年11月1日に日本天文学会天文教育普及賞内規が定められ、授賞委員会の委員(9名)が任命された。第一回委員会は2018年2月22日に京都産業大学において開催され、2019年春季年会において第一回の授賞を行うことをめざして活動を行うこととし、推薦依頼の準備を開始した。

V. 各賞の授与(定款第2章第5条7項に該当の事業)

2017年度日本天文学会各賞は、2018年1月20日および2月12日に開催された代議員総会で以下のように決定し、春季会員全体集会で授与した。

◇ 林 忠四郎賞 (1氏)

柴田 大(しばた まさる) 氏: 京都大学基礎物理学研究所 教授
研究の表題「数値相対論による連星中性子星合体の研究」

◇ 欧文研究報告論文賞 (2編)

・論文題目: Local Enhancement of the Surface Density in the Protoplanetary Ring Surrounding HD 142527

著者: Misato Fukagawa et al.

出版年等: Vol. 65, No. 6, article id. L14, 2013 December

・論文題目: Systematic X-Ray Analysis of Radio Relic Clusters with Suzaku

著者: Hiroki Akamatsu and Hajime Kawahara

出版年等: Vol. 65, No. 1, article id. 16, 2013 February

◇ 研究奨励賞 (3氏)

・井上 芳幸(いのうえ よしゆき) 氏: 理化学研究所 上級研究員

研究の表題「宇宙ガンマ線背景放射をはじめとする活動銀河核高エネルギー現象の研究」

・富田 賢吾(とみだ けんご) 氏: 大阪大学理学研究科宇宙地球科学専攻・助教

研究の表題：「輻射磁気流体シミュレーションによる原始星とその星周円盤形成過程の理論的研究」

・松岡 良樹（まつおか よしき）氏：愛媛大学宇宙進化研究センター・准教授

研究の表題：「超大質量ブラックホールの進化に関する観測的研究」

◇天体発見賞（4氏，13件）

・板垣 公一（いたがき こういち）氏10件

超新星 2017hr の発見，超新星 2017cjb の発見，超新星 2017czd の発見，新星 V3662 Oph の発見，超新星 2017dzs の発見，超新星 2017erp の発見，超新星 2017gww の発見，超新星 2017ijx の発見，超新星 2017ivu の発見，超新星 2017jbj の発見

・嶋 邦博（しま くにひろ）氏1件

超新星 2017B の発見

・中村 祐二（なかむら ゆうじ）氏1件

新星 V3663 Oph の発見

・西村 栄男（にしむら ひでお）氏1件

新星 V1657 Sco の発見

◇天体発見功労賞（1氏，1件）

・金子 静夫（かねこ しずお）氏1件

新星 V3663 Oph の独立発見

◇天文功労賞

長期的な業績（1氏，1件）

・富岡 啓行（とみおか ひろゆき）氏

「小惑星による恒星食の多数回観測と小惑星の衛星の検出」

短期的な業績（1氏，1件）

・小嶋 正（こじま ただし）氏

「おうし座の重力マイクロレンズ現象の検出」

VI. 助成金(定款第2章第5条5、7、9項に該当の事業)

◇ 早川幸男基金：

若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い総額約445万円の援助を行なった。（応募54件、採択23件、採択率47%）

◇ 学術交流費（学生の年会参加旅費補助）：

賛助会員会費をもとに、大学院生などが秋季年会（北海道大学）、春季年会（千葉大学）に参加して研究発表をするための一部補助を行なった。（発表者：45名、総額88.9万円）

◇ 内地留学奨学金：

今年度については、該当者がいなかった。

VII.後援事業等(定款第2章第5条8項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの共催2件、後援15件、協賛10件を決定した。

承諾日	実施月		事業名	宛先(代表者)
4/18	17年6月	後援	青少年のための科学の祭典2017	日本科学技術振興財団
4/25	17年8月	後援	第31回天文教育研究会	天文教育普及研究会
4/27	17年7月	後援	第7回高校生天文活動発表会	高校生天文活動発表会実行委員会/大阪教育大学
5/24	17年7月	協賛	第2回日本写真学会天体写真技術セミナー	一般社団法人 日本写真学会
5/24	17年9月	協賛	第35回レーザセンシングシンポジウム	第35回レーザセンシングシンポジウム実行委員会/レーザ・レーダ研究会
5/24	17年10月	共催	第61回宇宙科学技術連合講演会	一般社団法人 日本航空宇宙学会
6/9	17年11月	協賛	可視化情報全国講演会(室蘭2017)	一般社団法人 可視化情報学会
6/9	17年7月	後援	学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2017(第11回)	特定非営利活動法人 natural science
6/20	17年8月	協賛	女子中高生夏の学校2017	国立女性教育会館
7/3	17年12月	後援	第15回高校生科学技術チャレンジ(JSEC2016)	朝日新聞
7/3	17年9-10月	後援	三鷹の森科学文化祭「みたか太陽系ウォーク」	特定非営利活動法人 三鷹ネットワーク大学推進機構
7/18	17年11月	後援	第18回こどものためのジオ・カーニバル	こどものためのジオ・カーニバル企画委員会
8/4	18年5月	協賛	日本地球惑星科学連合2018年大会	公益社団法人 日本地球惑星科学連合
9/1	17年10月	後援	平成29年「三鷹・星と宇宙の日」	自然科学研究機構国立天文台
9/19	17年12月	後援	第13回最新の天文学の普及をめざすワークショップ	神戸大学惑星科学研究センター
9/25	17年11月	後援	第7回可視赤外線観測装置技術ワークショップ	可視赤外線観測装置技術ワークショップ実行委員会
10/24	18年1月	協賛	日本光学会第44回冬季講習会・AI時代の最先端センシング	一般社団法人 日本光学会
10/24	17年12月	後援	京都産業大学益川塾第10回シンポジウム	京都産業大学、読売新聞社
10/31	18年11月	協賛	第11回 international Conference on Optics Design And Fabrication	一般社団法人 日本光学会
11/13	18年11月	協賛	第2回 Asia Pacific Conference on Plasma Physics	アジア太平洋物理学学会連合
12/15	18年3月	協賛	第43回光学シンポジウム	一般社団法人 日本光学会
12/15	18年8月	後援	科学教育研究協議会全国研究大会	科学教育研究協議会
12/15	18年5月	後援	12th International Conference on High Energy Density Laboratory Astrophysics	大阪大学レーザーエネルギー研究センター
1/17	18年3月	共催	高校生天体ネットワーク全国フォーラム2018	高校生天体ネットワーク
1/18	18年7月	後援	第48回 天文・天体物理若手夏の学校	天文・天体物理若手の会
2/19	18年9月	協賛	日本流体力学会 年会2018	一般社団法人日本流体力学会
3/8	18年5-9月	後援	高校生火星観測会<Mars 2018>	高校生天体観測ネットワーク

Ⅷ. 外部の各賞・研究助成等への推薦(定款第2章第5条7項に該当の事業)

外部の各種の賞および研究助成に対し、天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、会長・副会長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。(山田科学振興財団研究援助1件、東レ科学技術研究助成2件、日本学術振興会賞1件、日本学術振興会育志賞1件)

Ⅸ. インターネット版「天文学辞典」の公開(定款第2章第5条6項に該当する事業)

2017年度子どもゆめ基金助成金事業を受託し、インターネット版「天文学辞典」(ベータ版)を2017年3月に公開した。インターネット版は、シリーズ現代の天文学別巻『天文学辞典』(日本天文学会100周年記念事業)を元に更新と追加を行いデジタル化したもので、約3千語の天文学用語が無料で誰でも閲覧可能である。

Ⅹ. 事務所活動(定款第1章第2条)

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員3名と5名の非常勤職員により、本会の各事業に関する業務活動を行った。

会 員 数

2018年3月31日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2017年3月31日	2,059(506)	1,105	37	42	3,243
入 会	235(216)	78	0	0	313
退 会	△171(133)	△53	0	△3	△227
移 籍 (増)	6(0)	11	-	-	17
移 籍 (減)	△11(2)	△6	-	-	△17
正会員へ(学生減)	△(82)				
2018年3月31日	2118(505)	1,135	37	39	3,329

(注：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(文責 庶務理事：伊王野大介)